

西栗倉小学校だより

十月四日に、一年生は五年生に塩谷のりんご園に連れて行ってもらいました。そこで、五年生が総合的な学習で取り組んでいるりんごの収穫の手伝いをしました。

○木のえだがすぐくのびていたので、びっくりしたよ。だいの上にあがるとき、ぐらぐらしているのをもってきてうれしかったよ。

金子みずき

○一つのえだに三つもついているひめりんごがあつてびっくりしたよ。りんごをきれいにむいてくれて、とってもうれしかったよ。

河野あや音

○りんごをとるとき、だっこしてくれてうれしかったよ。はこの上にのるとき「気をつけてね。」とやさしくいってくれたよ。

河野 みら

○りんごはじめは青いけど、ふくろをとってお日さまにあたるとあかくなるよ。りんごをむいて先にたべさせてくれてありがとう。

河野 りこ

○あかいりんごがあるところをおしえてくれてありがとう。ひめりんごが小さくてとてもあかくなっていたので、びっくりしたよ。

白旗じゅき



○りんごをじぶんととることができてうれしかったよ。たかいところにあるとき、「だいじょうぶ。」といってくれてありがとう。

手稲 まり

○一つのえだにりんごがたくさんついていてびっくりしたよ。学校にかえてりんごを三つくれたのがうれしかったよ。

野々上いぶき

りんご園では「千秋りんご」の収穫が最盛期を迎えていました。当日は、雨の降るあいにくの天気でしたが、五年生がとても優しく教えてくれたので心が温かくなりました。

大原高校だより 美作市3高校野球部OB交流会 (大原高校閉校記念)

10月16日(日)。午前8時30分。昨日の雨が嘘のように快晴。木曾城先生(元大原高校野球部監督)の宣言で開会式が開始される。大原高校のグラウンドは、昨夜の雨に湿ってはいたが、ぬかるむほどではなく、さわやかな秋風に絶好のスポーツコンディションとなった。

江見紘輔大原高校校友会長の挨拶。大原高校のグラウンドに、江見商業高校・林野高校の皆さんを迎えての歓迎の言葉。閉校が半年後に迫り、残念の極みだが、両校の野球部OBに來校いただいたことへの感謝。大原高校は、閉校になっても卒業生の心の中には、素晴らしい高校・青春の思い出として生き続けます。来賓代表の挨拶は、宮本俊朗美作市長。ご多忙の中、早朝であったが駆けつけて下さった。大原高校の閉校は寂しいが、美作市の高校教育の発展のためこの交流会が継続していただければ、と励ましの弁。

最後に、神原文晶大原高校長(林野高校と兼務)が、大原高校に多くの野球を愛する皆さんを迎えることができてうれしい、怪我のないようにと挨拶。この度、製作した生徒の声による大原高校の校歌に載せて、大原高校・江見商業高校・林野高校の3校の校旗が掲揚される。

いよいよ始球式。大原高校・江見商業高校の監督として全国大会に導かれた加百文男先生の登板。ワンバウンドになるが、ストライクであった。

3校のリーグ戦という形式で交流試合は開始される。初戦は、大原高校と林野高校が対戦。20歳くらいの若々しい青年から、どう見ても60歳は越えられていると思

われる青年までの多士済々。しかし、野球の技術は確が。素人の私にも、かつての勇士が惚ばれる。中年・壮年は必死。若者は先輩を気遣ったプレー。時代は違っても同じグラウンドで汗を流したOB達。時間を超えて仲間の意識が交錯しているすばらしい集団。

昭和38年の山口国体優勝の栄誉に浴した大原高校のエース田中選手の渾身の力としたプレーに拍手喝采。勝敗はともかく、皆の一挙手一投足に、温かい野次と激励の拍手。足が動かずに、ボールを落とす者。ボールを見失いハンプルする者。しかし、皆一所懸命。平成18年3月に、大原高校は閉校となり、その3年後には江見商業高校も閉校となる。すべて林野高校に統合される。江見商業も全国大会出場、大原高校は国体優勝と輝かしい歴史のある野球部。林野高校も強豪である。閉校になる2校は、「林野高校後はよろしく願います」と願っているようでもあった。

この交流試合の世話をなされた丸山直之さんの言。「初めてのことで、大変であったが皆に感謝していただき感激している。多忙だが、この充実感はなんとも言えない。苦労した甲斐があった。」

学校も草ぼうぼうのグラウンド整備など、教職員・生徒が夏から汗を流し、卒業生の皆さんに協力できたことをうれしく思っております。いつもお世話になってますOBの方々にくらか恩返しできたようです。

(副校長 上原正之 10月17日記)